

学校名 南城市立玉城小学校	連絡先 TEL : 098-948-7251 Eメール : tamasho-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp
------------------	--

1 実践事項

○特色ある取り組み（カリキュラムマネジメント・ICTを活用した事例等）

2 実践内容（具体的な取組）

(1) 学習規律「玉小ルール」の徹底

- ① 全学級に掲示して年度初めの学推朝会や教科指導の中で確認する。
- ② 学校生活で繰り返し指導し学習規律を徹底させ、学習を支える基盤作りをする。
- ③ ノーチャイムを取り入れ、時間を意識した行動と時間管理ができるようにする。
- ④ 「玉小ルールアンケート」を年2回児童に実施し自己評価をさせ指導に生かす。

**玉城小ルール3年以上**

**登校中**  
あいさつ 立ち止まって相手を見て明るい声で

**登校後**  
ふでばこ ①2B・Bのえんぴつ(5本) ②赤青えんぴつ ③定規 ④ネームペン ⑤消しゴム  
机の中 右…本・ノート・下じき (時間割順) 左…のり・消し・クーピー 定規セット(整理整頓)

**授業前**  
机の上 授業前 授業中 本は左へ ノートは右へ ノートは左へ 本は右へ 右ききの子 左ききの子  
時間に合わせて 1分前着席 黙想

**授業中**  
座り方 ①足裏をつける ②背筋を伸ばす ③お腹と背中中は拳1つ

**授業中**  
席を立つ イスを机の下へ  
挙手 手をのばし「はい」は1回しずかに手を挙げる  
返事 「はい」「いいえ」が言える  
聞き上手 相手を見て考えながら最後まで聞く  
話し上手 相手を意識して伝えたいことを聞こえるように話す  
発表 ①基本話型を使って発表する ②主語・述語を考え「です」「ます」をつけてはっきり言う。  
ノートの使い方 ①月日を書く ②定規を使う ③めあて・まとめ→赤 考え→青  
安全安心 「まどう室」横断歩道を渡り「いかのおすし」を守ります

【玉小ルールアンケート結果】

質問項目	あいさつ	筆箱の中	机の中の整頓	机の上の整頓	時間黙想	学習姿勢	イスを机の下へ	挙手	聞き方	発表の仕方
令和4年11月	88.9%	77.7%	85.2%	92.5%	85.2%	81.5%	92.6%	88.8%	96.2%	85.2%
令和3年11月	88%	84.6%	80.2%	88%	87%	73%	92%	82.5%	85%	76.5%

【成果】

- ① ノーチャイムにより、時計を確認しながら始まりと終わりを意識して行動できるようになった。
- ② 机上の整頓が徹底され学習に集中して取り組めるようになった。
- ③ アンケート結果を担任と振り返ることで、自分の行動をよくしたいという意識が高まった。

【課題・対応策】

- ① アンケートを分析して達成率の低い項目は粘り強く定着を図り、継続指導を徹底していく。
- ② 自己肯定感を高めるため、全職員で「誉め言葉のシャワー」を浴びせる実践を広げていく。

(2) 調査問題の結果分析と学習指導への活用

- 全国学力学習調査の結果を分析して成果と課題を把握し全職員で共有した。落ち込みのあった単元や指導事項については、当該学年で重点的に指導する。
- ① 「令和4年度全国学力学習状況調査結果」自校分析と対策（国語）
  - ・ 結果、本校と沖縄県との差はなく、全国との差は－2，6ポイントであった。
- ② 「令和4年度全国学力学習状況調査結果」自校分析と対策（算数）
  - ・ 結果、本校と沖縄県との差は、－1ポイント、全国との差は－5，2ポイントであった。
- ③ 「令和4年度全国学力学習状況調査結果」自校分析と対策（理科）
  - ・ 結果、本校は沖縄県より2ポイント高く、全国との差は－0，3ポイントであった。

【課題・対応策】

- ① 児童の感想から「時間が足りなかった」という声が多く聞かれた。そのため文章や問題を速く読み取ることができるよう意識して指導していく。

- ④ 「令和4年度全国学力学習状況調査結果」（生徒質問紙より本市の具体的達成目標に関する項目）

自分には、良いところがあると思う

当てはまる 25,8 %	どちらかといえば当てはまる 45.2 %	どちらかといえば当てはまらない 21.0%	当てはまらない 8.1 %
-----------------	-------------------------	--------------------------	------------------

地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある

当てはまる 14,5 %	どちらかといえば当てはまる 32.3%	どちらかといえば当てはまらない 24.2 %	当てはまらない 29.0 %
-----------------	------------------------	---------------------------	-------------------

学校に行くのは楽しいと思う

当てはまる 38.7 %	どちらかといえば当てはまる 33.9 %	どちらかといえば当てはまらない 19.4 %	当てはまらない 8.1%
-----------------	-------------------------	---------------------------	-----------------

学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたりすることができている

当てはまる 14,5 %	どちらかといえば当てはまる 56.5 %	どちらかといえば当てはまらない 14.5%	当てはまらない 12.9 %
-----------------	-------------------------	--------------------------	-------------------

【対応策】

- ① 「なかよしアンケート」を毎月実施し、児童の生活の様子等の情報交換を行っている。また、QUアンケートを学級経営に生かし、満足度を客観的に分析して児童理解の充実を図っている。さらに、支援を要する児童についても、職員会議後の生徒指導部会で全職員で共通確認を行っている。
- ② 校内研修において「自己肯定感を高める指導の工夫」に取り組んでいる。

(3) MIM やコグトレによる基礎学力の定着

- ① 諸調査問題において読むことに課題があったことから、低学年で読むことが定着できるように国語の授業や帰りの会等でフラッシュカード等を活用している。
- ② 授業開始5分間に集中してコグトレをすることで落ち着いて授業に臨むことができている。



【フラッシュカードによる個別学習】

### 【成果】

- ① MIM のボディーランゲージを取り入れた指導により促音や拗音の理解が深まっている。
- ② コグトレをすることにより、学習にスムーズに入り集中することができている。
- ③ コグトレにより算数の計算が速くなった。



【集中してコグトレに取り組む】

### (4) クロムブックを活用した学習指導

#### 【活用事例】

算 数・・・無料のクラウド教材を活用して、自分のペースで既習問題を解き進めさせている。

社 会・・・単元のまとめに新聞づくりを行わせ、表現力や判断力を伸ばしている。

図 工・・・クラスルームを活用して、作品鑑賞の感想や気付き等を打ち込み担任に提出させた。

外国語・・・ネット上のクイズでゲームをしながら学習し、単語や文法・文章表現を楽しく確認、定着できるようにしている。3年生が百名小学校とオンラインで英会話を楽しんだ。

その他・・・グーグルフォームを活用して、各種児童アンケートの回答を入力させた。

週に1回、モジュール学習（15分）をパソコンタイムとして、パソコンに慣れ親しませる機会を増やしている。

不登校気味の児童にクロムブックを持ち帰らせ、オンライン授業に参加させたり学習のサポートをしたり、教師とのコミュニケーションをとるツールとして活用している。

### 【成果】

- ① 「個別最適な学び」として楽しみながら集中して学習や教材作成に取り組めた。
- ② キーボードの打ち込み速度やソフトの操作が格段に向上した。



### (5) スタートカリキュラム（1年）

○小学校は楽しいところだという気持ちを持たせる

朝の活動 ○一日の生活の流れが分かり見通しをもって行動する。

帰りの会 ○今日の楽しかった事や出来事を話し合い、明日に期待を持って帰る。

○明日の持ち物や準備する物を皆で確認し合う。

○クイズやなぞなぞを楽しむ。

#### 配慮点

○入学当初は、新しい環境に慣れず緊張しているので、保育園や幼稚園で習っていた歌やゲーム、絵本の読み聞かせ等を通して、緊張感を和らげたり、先生と学級の皆と楽しいと感じさせたりする。担任との親しい関係作り。

○見通しをもって行動できるように、時計を使って指示したり、一日の活動の順序を掲示したりする。

○給食の準備は、保育園や幼稚園での経験を生かし再確認しながら児童に任せ見守る。「さ



すが！りっぱな1年生」とできたことを認めてあげ意欲的に取り組めるように言葉かけをし、自己肯定感を高める。(片づけや清掃等も含む)

- ロッカー・机の引き出しの整理整頓をし、学用品は自分で管理できるようにする。使った物は元の場所に戻す。



《けんけんばあそび》なかよしタイム



《先生や友達と仲良くする》のんびりタイム

### 【成果】

- ① アプローチカリキュラムを実践することで楽しみながら自立心・協同性等を身につけることができた。

### (6) 思考ツールを活用した学習指導

- 「10の思考ツール」を効果的に活用して授業改善を行う。
- 「思考の可視化」「思考の整理」をしやすくするために思考ツールを活用する。
- 思考ツールを活用した授業実践を行う。(一人一回以上の研究授業)

### 【今年度の活用事例】

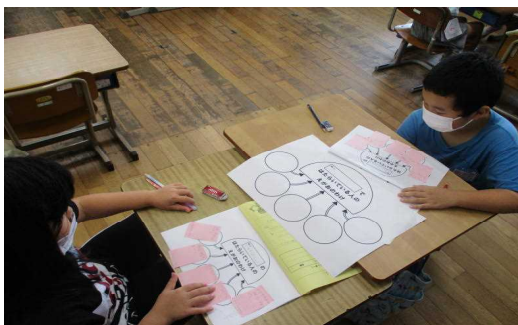
算数 (1・4年)・・・ステップチャート (順序立てる・計画する・構造化する・要約する)

社会や自立 (5年・特支)・・・くらげチャート (理由づける・関係づける・要約する)

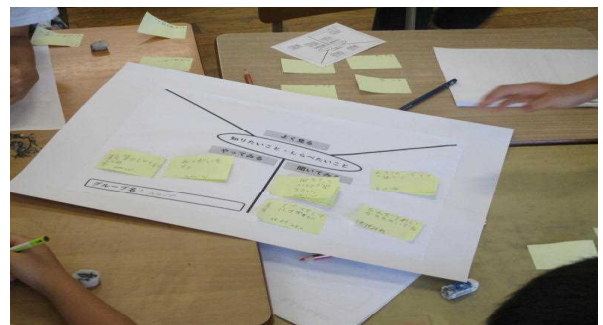
国語 (2年)・・・シンキングツール (心情曲線・叙述を即して読み取ったことを視覚的に表現する)

Yチャート (3つの視点を対象に意見を出し新しい考えや課題を見いだす)

総合 (6年)・・・イメージマップ (アイデアを二重、三重に広げる)



【クラゲチャート】



【Yチャート】

## 3 今後の取り組み

- ① 今年度もコロナ禍で、年度当初に計画していた学力向上の取り組みが十分には実施できなかった。そのため次年度は体験学習も多く実施できるように計画を見直していく。
- ② 生活リズム点検表や玉小ルールアンケートを取ることで児童の意識も高まってきているので、今後も継続して取り組み、児童に自己を振り返る習慣を身につけさせたい。
- ③ MIM やコグトレによる成果が見られた。次年度も継続して取り組んでいく。
- ④ クロムブックを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」や「生徒指導の4機能」を活かした授業の日常化等の新たな学習指導にも主体的に取り組む教師を育成する。
- ⑤ 思考ツールを活用し、考えを可視化して話し合い活動を充実させていく。

# 「南城市玉城小学校カリキュラムマネジメント」

